竹取新聞

発行所
株式会社 カグヤ

第183版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願いいたします。

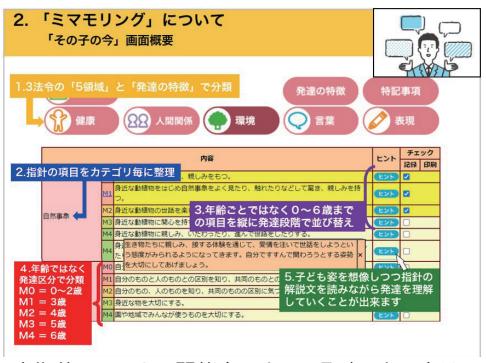
発達理解のツール

9月末に開催した「ミマモリングアドバンス」後編では、先生方に3つの保育実践を発表していただきました。（保育支援ソフト「ミマモリング」を活用したオンラインセミナーです。）

開園2年目の先生方からは、01歳児クラスの食事と遊ぶ部屋を分け、存分に遊べる環境を用意したことで、スムーズに食事が出来るようになった事例や、3～5歳児クラスの表現活動をする際の動線を見直したことで、より充実した遊びが行われるようになったことを発表していただきました。また、別の園の先生からはレゴブロックのお片付けで困っていたことを逆手に取り、子どもたち自身が遊び方（ルール）を考える参画の機会を用意したとの発表をしていただきました。

セミナーの前編では「ミマモリング」を開発した経緯や保育所保育指針など三法令に準拠していること、領域ごとに発達順に並んでいることなど、普段の保育に活かしていただくための目的等をご説明しています。先生方には「ミマモリング」の活用目的などを再確認いただいた後に、改めて子どもたち一人ひとりの発達を理解し、環境設定を行っていただいています。後編のセミナーを開催するたびに、先生方から生み出される保育実践やアイデアの豊富さに驚かされ、保育の奥深さや、子どもたちを見守る温かな寄り添いを感じています。

先生同士で話し合いながら「ミマモリング」をご利用いただくことで、子どもたちの発達理解を深めることに繋がり、環境づくりの一翼を担っていることに嬉しさを感じています。（奥山 卓矢）



定期的にセミナー開催中です！ ご興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

熱いGTサミット

年に一度のGTサミットが今年も開催されました。見守る保育 藤森メソッド®を学び、実践し続ける各施設の「長」が集まるこのセミナー。毎年感じるのは保育に対する熱量とその実践量です。今年もオンライン・オフライン双方に集まる中、各地での勉強会における実践報告をお話いただきました。

長崎県では地域の全実践園が公開保育を行い、地域の保育園・幼稚園・子ども園や教職員、教育委員会に向けて「個別最適な学びと協働的な学び」の基礎としての実践的な保育を見てもらうことを目的とし、地域全体の保育の底上げとなるような動きを計画されていました。

また、各地域の人々を繋げた勉強会（香川県では国民民主党玉木代表と藤森先生との共演）や、鳥取県日南町での地域として藤森メソッドを取り入れていく動きなど、取り組む幅と深さに脱帽です。

そして、新学習要領の策定に取り組まれている奈須正裕氏からも、「これからの学校教育は個別最適な学びができることが当たり前の、皆さんが実践されているような保育のようになっていかなければならない」と、改めて歩んでいる方向性に確信を持つ機会にもなったように思います。

藤森先生からは、藤森メソッドがこれからもしっかりと質の維持と向上ができるようなプログラムとして「授権資格制度」の説明があり、今後益々この保育の質が担保される環境が充実していくこととなりました。毎年歩みを深めていく皆さんの姿から、来年はどんなお話をお聞きすることができるのだろうと、未来の保育への大きな希望と期待、そして大きな勇気をいただいています。（眞田 海）

懇親会でも白熱の保育談義。熱意に溢れていました。

有難き収穫

まだまだ残暑が続いていた9月のはじめに、無事に「むかしの田んぼ」の稲刈りを行うことができました。数日間続いた大雨の影響で当初の予定より遅れての稲刈りとなりましたが、稲たちは頭を垂れながらもなんとか耐え、収穫の時を待ってくれていました。稲刈り後に田んぼをお借りしている藤﨑農場さんに籾摺りを行っていただいたところ、今年の収穫量は「808キロ」という結果でした！

今年は異様に草が多く生え、また猛暑や大雨を繰り返すという極端な天気にも関わらずこれだけたくさんの収穫ができたのは、自然の恵みと、毎日見守ってくれた藤﨑農場の皆さんのおかげです。改めて感謝をお伝えしたいと思います。

ここ7年間の収穫量を振り返ってみると、673キロ、510キロ、990キロ、660キロ、1045キロ、850キロ、そして今年の808キロ。無肥料無農薬で育てているため、今年のように草が異様に生える年もあれば、ジャンボタニシが大発生して上手に草を食べてくれる年もあります。草取りも頑張りますが取りきれないため、極力自然のままに見守った結果、安定しない収穫量として表れていることが「むかしの田んぼ」らしいと感じています。

全国的にお米の生産量も消費量も減ってきていると言われていても、今年のように「令和の米騒動」が起こると改めてお米があることの有難さが身に沁みます。もともと私たちがお米をつくり始めたのも東日本大震災がきっかけでした。自分たちにとって大切で欠かせないお米を通して自然の恵みや恐さを学び、子どもたちと一緒に自然の偉大さを体験できる場であり続けたいと思います。（眞田 由莉）

黄金色の中に緑色の草が目立ちます。
その年その年で趣の違う、個性的な田んぼで飽きません！

カグヤクルーブログも毎日元気に配信中！
カグヤウェブサイト
www.caguya.co.jp
「聴福庵」の情報はFacebookで
神家総本家 聴福庵

CCN CAGUYA COMPANY NEWS カグヤニュース

カグヤでは、それぞれが別々の場所にいても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

七五三

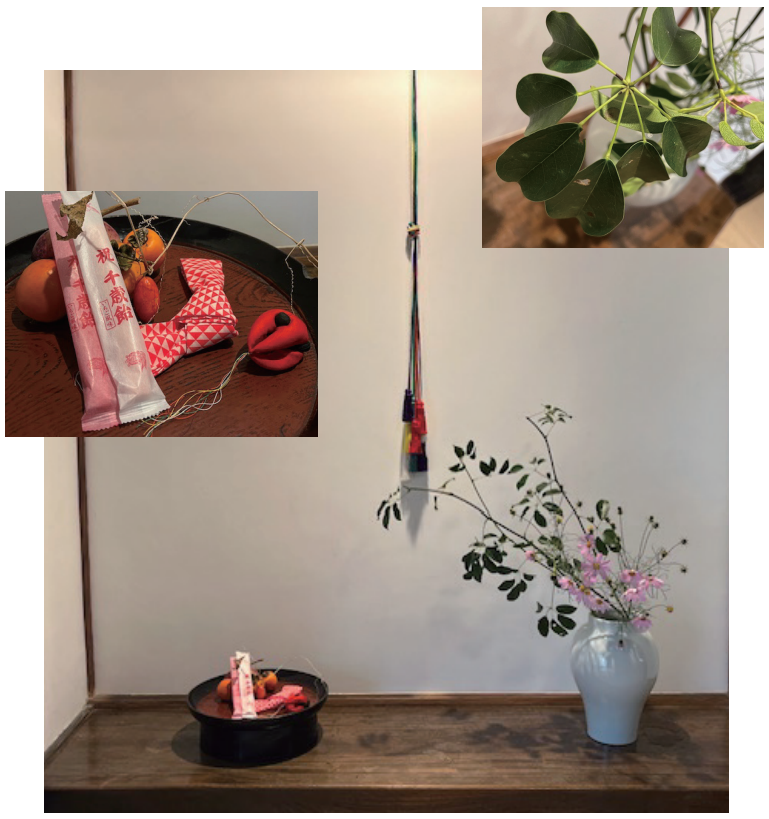
秋も深まり木々も色鮮やかに紅葉してきて、気付けば紅葉狩りが楽しい季節がやってきますね。そして、来月11月15日は「七五三」。昔からある日本の伝統行事ということで、この時期は神社にお参りに行くご家庭や園も多いことと思います。

七五三の由来には諸説ありますが、平安時代の頃から宮中で行われていた3つの儀式「髪置き（かみおき）の儀」「袴着（はかまぎ）の儀」「帯解（おびとき）の儀」が基になっているそうです。現代に比べて医療の発達が未熟で衛生面もよくなかった昔は、幼い子の死亡率がとても高く、「7歳までは神のうち（神の子）」として扱われ、7歳になって初めて人として一人前であると認められていました。子どもが無事に育つことは大きな喜びであり、親として健やかな成長を願わずにはいられないものだったので、3歳、5歳、7歳の節目に成長を神様に感謝し、お祝いをしたことが七五三の由来とされており、やがて江戸時代に現在の七五三の原型として武家や商人の間に広まったといわれています。

医療が発達した今でも、子どもの成長を願う気持ちは昔と変わらないものですから、その子にとって一生に一度しかないこのような人生の通過儀礼はやっぱり大事にしたいものですね。

そして、大人になった私たちも、ここまで生きてこられたことへの感謝や、両親をはじめ、子どもの頃から人生の節目の度に祈り、願い、祝ってくれた存在に感謝し、七五三を過ごしてみるのもよさそうですね。

（宮前 奈々子）



【七五三の室礼】
柿：「嘉来（かき）」で喜び来たるの意味から。
ムベ：芽が出て初めの年は三つ葉、次は五つ葉、その次は七つ葉と、成長に合わせて葉っぱの数が増えていき、七五三の縁起木とも言われるムベ。
ねずみ瓜：代々繋がってきたことへの感謝と、これからも繋がっていくことへの願いを。
千歳飴：長くまっすぐな飴に、素直にまっすぐな成長、千歳の長寿を願います。
紐：鱗文様は厄除けを意味します。
くくり猿：紅絹（もみ）で作った猿を両手両足を一つにくくった「難を去る」の縁起物。

一期一会庵

和の伝承

カグヤでは今年も無事に稲刈りが終わり、有難い収穫を味わいました。御蔭様で13年ほどになる無肥料無農薬のむかしの田んぼでは、田んぼの元氣も増え収量も同時に増えて味わいも格別です。

ある大学とご縁があり、うちのお米を調査したら抗酸化力が通常の有機農法のお米よりもさらに2倍ほど高いと分かり大変驚かれていました。田植えから草刈り、稲刈りとご祈祷、丁寧に暮らしをととのえていくだけで収量もよくなる不思議な田んぼとして、周辺の農家からも驚かれているそうです。

もともと稲というのが循環の象徴でもあります。稲藁もむかしから生活の中に溶け込む藁製品になっていきました。例えば、草鞋やゴザ、鍋敷きや藁ぶき屋根、納豆づくりや芋の保存、他にも神事のしめ縄などにも使われてきました。捨てるところは何一つなく、まさに稲は日本人のむすびや繋がりの循環を支えてきたのです。

今では稲藁を用いた繋がりは減ってきています。それは機械化や合理化によってみんなでお米作りをすることをやめたことや、効率優先で農薬などを用いるようになったこと、そして収穫した稲藁はそのまま裁断して田んぼにまいてしまうことなどから地域や人々との結びつきも希薄になりました。

私たちはお米を食べますが、先人たちは単なる「食べ物」ではなくそれ以上に「和の精神や生き方を体現する存在」として稲を尊い存在にしていたように思います。

子どもたちは現在、稲刈りを経験することもなくなってきています。またお米がどのようにできているか、本当に美味しく食べる機会もなくなってきました。私たちの挑戦の一つとして竈で炭火で炊いたお米を毎月一度、保育園で炊いて子どもたちに食べてもらうような研修をしたところがあります。今では、園の大切な行事として伝承するところまで来ています。お声をお聴きすると、子どもだけでなくそれだけで地域との結びつきが増えていったと喜んでいただきました。

長い時間を経てきた和の伝承を、私たちも一緒になって次の世代へと結んでいきたいと思います。（野見山 広明）

編集後記

30年前の七五三の様子

もうすぐ七五三シーズン。お参りに行くご家族を見掛けるのもこの時期ならではのこと。私自身の七五三を振り返ると、いつもと異なる装いに気分が上がり、家族の晴れやかな表情を今でも鮮明に覚えています。七五三の由来も子の成長を願う親の気持ちも、我が子を通して知ることばかりです。

目の前にいる園児たちのためだけではなく、次世代の子どもたちのためにも最新の知見を学び、それを実践し続ける先生方の姿に感銘を受けます。先生方のように、私も社業を通して尽力して参りたいと思います。（奥山 卓矢）

caguya 株式会社 カグヤ

ライトハウス（灯台）
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.050-1744-8823
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17
東京堂神保町第3ビルディング8階
tel.03-3518-6217
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致
暮らしフルネスについて